

#02_こういう事されるの期待してたんでしょ？

「はぁ…」

「シャワーまで浴びさせてくれるなんてね。それに服も…」

「正直、助かりはしたけどさ…別に、そこまで期待してなかったから。寒いのか慣れてるし…」

「まあ、濡れた服で部屋を汚されるのは嫌か…」

「でも、私の服まで洗濯するとか、何？」

「そこまでしてもらう義理とかないし、適当にビニール袋にでも
詰めといてくれればいいんだけど…」

「はぁ…そ、あんたの中ではそうなんだ。なら、これ以上は言わない」

「やってもらってる立場な訳だし」

「でも、だからって…愛想良くするとか、サービスを丁寧にするとか、しないから」

「は？」

「いやいや、ここまで来てまだとぼけるの？」

「こういう事、させるつもりだったんでしょ？」

「ちょっと、暴れないでよ。やりづらい…てか、何？ 本当にそんなつもり無いの？」

「嘘でしょ。家出した女なら、簡単にやれるって…そういう下心でしょ」

「わかってるんだから…抵抗しないで…ほらっ…！」

「チッ…やっぱり、綺麗事言ってもさ…こっち、大きくなり始めてんじゃん」

「そういうのいいから。こっちだって覚悟してるし」

「あんたから無償で施しを受けるつもりなんて、ないんだから…」

「泊めてもらう分は、身体で返す。それだけ」

「だから…ほら、そのまま動かないで」

「あとウジウジ言うな。集中できないから」

「ん、じゃあ…はじめるから」

「ふう、ふう…ふう…触られただけでさ。すぐ大きくなるじゃん」
「さっきまで散々言ってた癖に…はぁ…」
「ん、だからいいんだって、これは私なりのけじめなんだから…」

「ふう、ふう…ん、ふう、はぁ、はぁ…」
「ていうか…ん、何…？ まだ大きくなるの？」
「ふう、ふう…んっ、ふう…ふう…はぁ…普通じゃない、気がするんだけど…」
「ここまでなるとか、知らないし…」

「ふう、ふう…んっ…はぁ…ふう…ちょっと休憩」
「腕、動かすの疲れるの…」

「それに痛むし…」

「別に、あんたには関係ない」
「ちょっとやり方、変えるから」

「っしょっと…はぁ」

「すんすん…んっ、汗臭っ…」
「まぁ、お風呂入ってなきゃそうなるか…はぁ…」
「何しようとしてるかって？ 決まってんじゃん」

「手だと疲れるから、口使うの」
「私がどうしようが勝手にしょ。指図されるいわれはないし」
「いいから、あんたは黙ってされてればいいの」

「ふう、ふう…んっ…はぁ…んっ…チュツ…」
「チュツ、チュツ…んっ…はぁ、ふう…」
「はぁ、はぁ…まだ、口に入れるための準備…できてないだけだから」
「んっ…そんなジロジロ見ないでよ。鬱陶しい」

「んちゅっ、チュツ…チュツ…チュウ…んう…はあ、はあ…」
「チュツ、チュツ…チュツ、チュウウウ…んふっ…」
「ふう、ふう…チュウウウ、れる…れる…んちゅ、れる、れる…」
「れるれる…れるれる…ふう、ふう…れるれるれるれる…」

「ふう…ん、よし…そろそろ…はあ～…ふう～…」

「んっ…チュウ、んりゅりゅ～…」
「んふう～…ふう、ふう…んっ…んりゅう…んふう、ふう、ふう…」
「んっ…ふう、れるれる、れろれりゅ…れる、れろ…れるれる、れろりゅ…」
「ふう、ふう、れろれろ、れりゅれろ…れりゅる、れる、れる…れろ、れる…」
「ふう、んっ…！ れる、れろ、れる、れろれろ、れるりゅ…んう…ふう～」

「ぷふう、はあ、はあ…はあ…」
「あんまりこっち、見ないでほしいんだけど…気が散るし」

「ん、ふう、ふう…んじゅう、じゅりゅりゅ～…んふう～…」
「ん、んる、るれりゅ、れる、れる…れろれゅ…んっ、んっ…れるれる…」
「んふう、ふう、ふう、れるれる、れろれる、れる、れる、んふう、れるれる…」
「ふう、はあ、ふう…んっ…ぷふう～…はあ、はあ…はあ…はあ…」

「ん…私の心配とかしなくていいから」
「ていうか、ここをこんなにしながら善人ぶるの、ムカつくからやめて」
「どうせ内心、喜んでるんでしょ？」
「他人なんて、信頼できないし…したくもないの」
「ま、いいんだけど。私は私がやるべき事…するだけだし…」

「んふう、ふう…ん～…んっ！ ぐぷふう…！ んぐっ…！ んう、ふう、んんっ…！」
「んっ！ んうぐ！ んんんっ…！」
「んんっ、んぐう、ぐっ…ぐう…んぶっ、んぐじゅりゅ…んじゅ、んんっ…」
「んうっ…！ んぐっ！ んんうう！ んぶっ、んっ！ んう！ んふう！」

「んっ、ぐっぽ！ ぐぽ！ ぐっぽ！ んぐうっぽ！ んふう！」
「んぐっ、ぐっ！ んふう！ んぐ！ んぶう…っ！ んっ！」
「ぐっぽ！ ぐっぽ！ ぐぷぷっ！ んっ！ んぶっ…んっ！ んぐっ！ ぐううう…！」

「んう…ふはあ…はあ、はあ、はあ…はあ…！ はあ、はあ…」

「んうぐっ…やっぱりあんたの、デカすぎ…るし…」

「はあ、はあ…奥まで啜えようとする…苦しくなるじゃん…」

「んっ、はあ、はあ…んっ…はあ？ あんた、ここまでされて…まだそんな事言う？」

「ふう、ふう…偽善者ぶって、ホント嫌い」

「あんたの化けの皮、絶対剥がしてやるんだから…」

「ふう、ふう…」

「はあ？ 決まってんじゃない」

「あんたみたいな偽善ぶってるやつが…ただの性欲まみれの獣だったのを…証明してやんの」

「ふう、ふう…んっ、ほら…！ 挿れたいんでしょ？」

「さっきよりも反応してるし…」

「いいよ、認めるなら挿れたげる。自分が偽善者だって事を、認めたらさ」

「はっ…？ まだ抵抗すんの？」

「ここまでやっというて？ 本当、ありえない…」

「セックスが愛してる者同士でやるなんてさ、幻想だよ？

少なくとも私は知らないし、知りたくもない」

「ふう、ふう…じゃあ、そこまで言うなら…これ、耐えられるよね？ 耐えてみせてよ」

「ふう、ふう…んっ…ふう、ふう…」

「んんっ！ んっ、くううううっ…！」

「はあ、はっ、はあ…んんっ、くっ…やっぱり、大きすぎ…くっ…はあ、はあ…っ！」

「べ、別に…濡れて無くてもっ…これくらいの痛みとか、全然…平気、だし…っ！」

「それよりも、あんた…よ」

「別に愛し合ってる同士でもないんだし、私の身体が目当てじゃないって言うんならさ…これ、耐えられるはずでしょ…」

「ふふっ…今から楽しみだわ。あんたの本性が、露わになるところ…見るのが、さあ…！」

「んんっ！ んんっ！ んっ！ んっ！ ぐっ！ ふっ！ ふっ！ んんっ！」

「ふう、ふう…んんっ！ はっ…んう、んっ、んんっ、はあ、ふう、んっ…」

「ふう、んっ…はあ、ふうっ…んんっ、んっ…！ やっぱり…」
「口では散々止めてくる癖に…されるがまま…んんっ！ じゃないっ…！」
「それに…汚い汁…ダラダラ流して…さっ…はあ、ふう…！」
「んっ…んっ、どんどん…滑り、良くしてくるじゃん…んふう、はあ、はあ…」

「やっぱり…んっ！ んっ！ あんた…下心…あつたんじゃん…！ はあ、はあ、んっ！
そろそろ…認めた…らあっ…！」

「ん、ふう、はあ…ふうっ…！ じゃあ…これは…私が出してるって…？」
「そんなわけ…ふう、ふう…んっ…無いしっ…！ んんっ！ んうっ！」

「そうやって…さあっ！ 自分が追い詰められたら…人のせいにするの…んっ！
ふう…ふう…！ 最低…っ！」
「はあ、はあ…んっ…でもさっ…！ 口では何言ってもっ…んっ！ んっ！」
「中に出したら…んっ、出しちゃったら…んふう…はあ、ふうっ…！ 無駄…だよねっ…」

「んっ、んんっ！ だから…出させてあげるよっ…私の中につ…んっ！ んんっ！」

「あんたが、いい人のフリをして、初めて会った女の子をつ…んっ！ 家に連れ込んで…！
んうっ…はあ、はあ…」
「中出しするような、最低なヤツだって…認めさせて、やるんだからっ…んうっ…！」

「んうっ…んっ！ あうっ…んっ！ んうっ！ はあっ！ はあっ…！ ふうっ…！」
「ふう、ふう…んっ！ 大きくなってきてる…じゃんっ。はあう、ふう、ふう…」
「ほら、認めなよ…っ！ 自分が偽善者だって…っ…！」

「んっ、んんっ！ はあ、はあ、ふううっ…！」
「ほら、認めろっ！ 認めろ！ 認めろ認めろ認めろ！ んんっ、ふう…んんっ！」
「認めるまで…絶対にやめないっ…からっ…！ んっ！ ああっ！ はあ、あっ！」
「んんっ！ ふう、んっ…大きくなってっ…！ ふうう…！」

「んん、何？ 出す気？ 出しちゃうの？」
「そしたら、口で認めなくても…んっ！ 認めた事になるけど…！ いい？」

「はあ、はあ…私は…んんっ！ それでも、いいけどね…っ！」
「あんたからの借り…十分、返せるしっ…！ はあ、はあ…フフっ…」
「ムカつく気持ちも、落ち着く気がするしい…んんっ！」
「ほら、出しちゃえ…出しちゃえっ！」
「中に…偽善者精液、全部、だーせっ！」

「んんっ！ あっ…！ んんんんんんっ！」

「はあ、はあ…出てる…全部、んんう♡」
「はあ、はあ…まだ出てるし…ふうう…もう、止める気も無いじゃん」
「んっ…溢れるぐらい出して…ホント、獣じゃん…はふう…」

「は…？ 何、あんた…まだそんな事言ってさ…」
「あくまで認めないつもり？ ていうか、説教とかやめてほしいんだけど…」
「はあ、本当に強情だね…あんた。ここまで頑固なのは、会った事ないかも」

「じゃあさ、あんたが教えてくれる？」
「人を愛するって事がどういう事か…そこまで言うんならさ、できるはずでしょ？」

「ふん、私みたいなのには無理か。どうせ、内心下心しかないんだろうし」
「ん…今の言葉、忘れないから」
「じゃあ、しばらく泊めさせてもらうからさ」
「せいぜい、いい人のフリしたらいい」
「私は愛なんて信じない…だから、期待はせずに過ごさせてもらうから」